

コロナ禍で減少した友人・知人との対面機会

— 60代女性では7割が減少 —

主任研究員 北村 安樹子

新型コロナウイルスの感染拡大にともなう4月以降の人々の移動・外出の自粛行動は、別居する家族や友人・知人との対面コミュニケーション機会にもさまざまな影響を及ぼしたと考えられる。当研究所では全国に先行する形で発令された7都府県への緊急事態宣言の直前にあたる2020年4月3日～4日に「第1回新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」を行った。また、4月中旬に緊急事態宣言の対象地域が全国へと拡大されてからその一部解除が決まる直前の5月15日～16日には、これに続く第2回目の調査を行っている*¹。

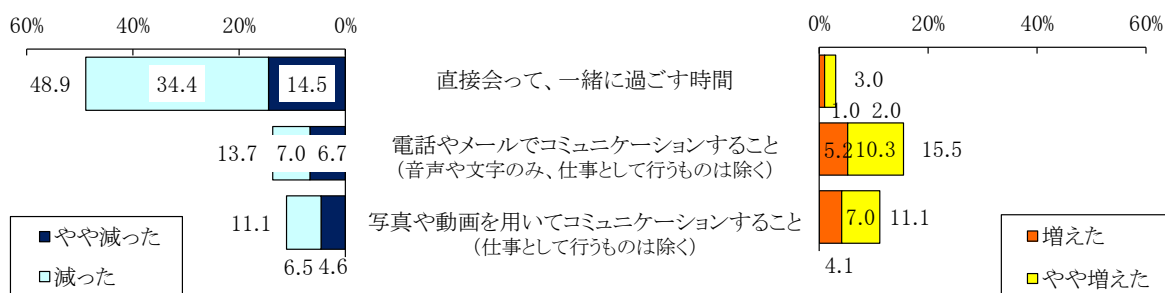
本稿では、第2回の調査結果から、外出や移動、他者との対面接触に関して自粛要請等が行われた緊急事態宣言下における、友人・知人とのコミュニケーション機会の変化について考察する。

<回答者の約半数で友人・知人と「直接会って、一緒に過ごす時間」が減少>

第2回調査では、4月中旬頃と比べた家族や友人・知人とのコミュニケーション機会の変化についてたずねている。調査項目は、「直接会って、一緒に過ごす時間」という対面機会とともに、「電話やメール」「写真や動画」を用いた、オンラインのコミュニケーション機会（仕事として行うものは除く）に関する増減状況をたずねるものである*²。

友人・知人に関する回答結果をみると、まず「直接会って、一緒に過ごす時間」については、減った（「減った」「やや減った」の合計、以下同）と答えた人が回答者全体の約半数を占めた（図表1）。一方、「電話やメール」「写真や動画」を用いたオンラインコミュニケーションについては、変化なしと答えた人が7～8割を占めた。両者を比較した場合、友人・知人と直接会う機会が減った人は、オンラインコミュニケーションが減った人に比べかなり多いことがわかる。

図表1 緊急事態宣言下における、友人・知人とのコミュニケーション機会の変化(全体)



注：設問文は『緊急事態宣言』の対象地域が全国に拡大された4月中旬頃に比べて、あなたの生活にはどのような変化がありましたか。もともとそれをおこなっていない方は「変化なし」を選んでください。

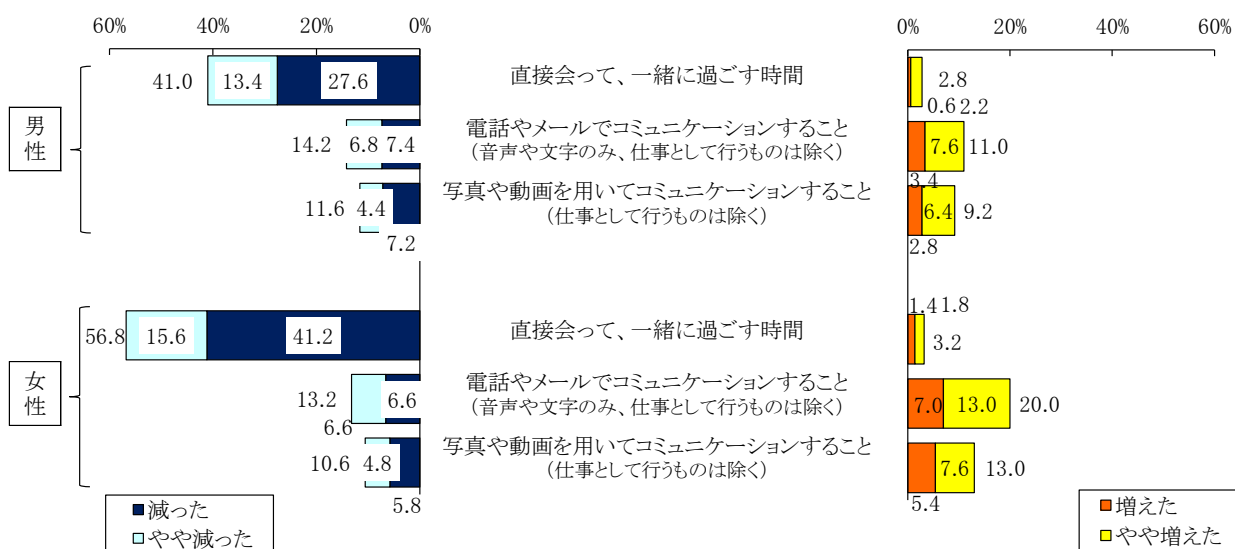
資料：第一生命経済研究所「第2回新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」2020年5月実施。

調査対象者は全国の20～69歳男女1,000人。調査方法はインターネット調査。

<女性では約6割が、友人・知人と「直接会って、一緒に過ごす時間」が減った>

性別にみると、「直接会って、一緒に過ごす時間」が減ったと答えた人の割合は、女性(56.8%)が男性(41.0%)を10ポイント超も上回っている(図表2)*³。人間関係が仕事中心の人も多い男性に比べ、家庭や地域など、仕事以外にも多様な友人・知人関係をもつ人が多い女性の方が、仕事を除く他者との対面コミュニケーション機会の減少が顕著に生じたのかもしれない。

図表2 緊急事態宣言下における、友人・知人とのコミュニケーション機会の変化(性別)



注・資料は図表1に同じ

＜60代女性では7割で、友人・知人との対面コミュニケーション機会が減少＞

では、友人・知人と「直接会って、一緒に過ごす時間」が減ったと答えた人、および「電話やメール」「写真や動画」を用いたオンラインコミュニケーションが増えたと答えた人は、どのような人に多かったのだろうか。本稿では減少した対面機会の代替としてオンラインが使われているかをみるための試みとして両者の差に注目する*⁴。

図表3は、友人・知人と「直接会って、一緒に過ごす時間」が減ったと答えた人の割合（A、水色の縦棒グラフ、「減った」「やや減った」の合計割合）、「電話やメール」または「写真や動画」を用いたオンラインコミュニケーションが増えたと答えた人の割合（B、黄色の縦棒グラフ、「増えた」「やや増えた」の合計割合）、両者のポイント差（C、折れ線グラフ）を示したものである。これをみると、まず、（A）が最も高いのは60代女性であり7割を占めている。（A）は60代男性でも高く約半数を占めるが、60代女性はこれを20ポイント超も上回り、このうち狭義の「減った」を選択した人が半数を超え最も高い割合を占める（図表省略）。60代女性には、自身の友人・知人との対面コミュニケーション機会について明らかに減ったと感じている人が、同年代の男性も含め他のグループに比べ多いといえる。

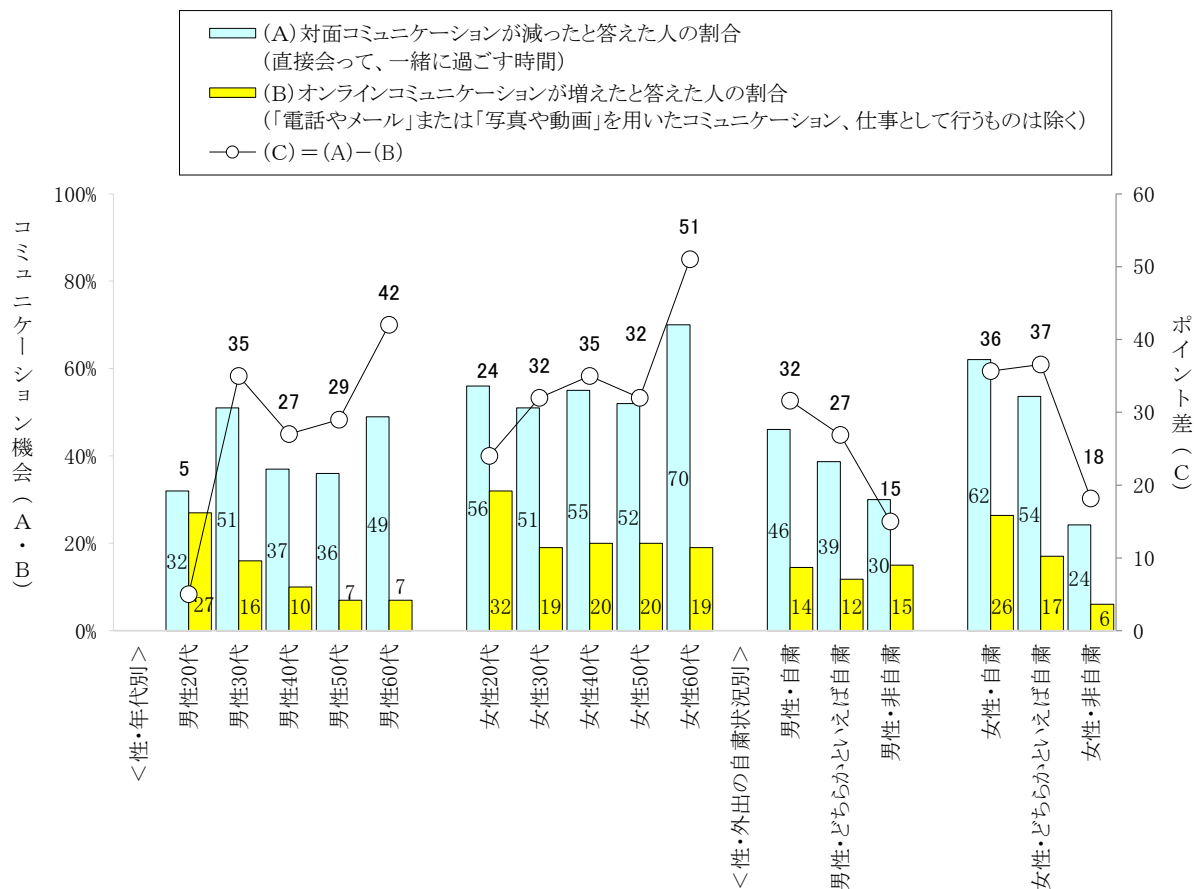
また、外出の自粛状況別に比較すると、対面コミュニケーション機会が減る傾向は、外出を強く自粛していると答えた人でより顕著にみられ、特に外出を自粛していると答えた女性において減ったと答えた人の割合が高くなっていた。

＜60代男女では、友人・知人とのオンラインコミュニケーションが増えた人は限定的＞

次に、（B）をみると、最も高いのは男女とも20代であり、男性では3割弱、女性では3割強を占める。（B）が増えたと答えた人は20代の男女に顕著であるが、60代男女をはじめ、年長世代にはあまりみられない。外出の自粛状況別にみると、男性では特に関連がみられないのに対し、女性では外出を自粛している人において、増えたと答えた人の割合が高い。

最後に友人・知人との対面コミュニケーション機会が減ったと答えた人の割合（A）と、オンラインコミュニケーション機会が増えたと答えた人の割合（B）の差を示す、（C）の値をみる。（C）の値が最も大きいのは60代女性の51ポイントで、60代男性の42ポイントがこれに続いている。オンラインコミュニケーションの増減状況に関しては、性・年代にかかわらず、変化なしとした人が半数を超える（図表省略）。しかしながら、60代の男女では若い世代に比べ他者との対面コミュニケーション機会の減少を経験した人が多かった一方、オンラインコミュニケーションが増えた人は少なく、対面に比べオンラインへの影響は限定的だったということになる。なお、これらの傾向は、外出をより強く自粛している60代女性において顕著にみられた*⁵。

図表3 緊急事態宣言下における、友人・知人とのコミュニケーション機会の変化
(性・年代別、性・外出の自粛状況別)



注：外出の自粛状況は、「必要な時以外、家から出ないようにしている」について「あてはまる」とした人を「自粛」、「どちらかといえばあてはまる」とした人を「どちらかといえば自粛」、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」とした人を「非自粛」とした。

資料：図表1に同じ

<対面コミュニケーション機会の減少で、シニア女性が感じたことは>

以上のように、今回の調査結果は、コロナ禍以前にはあった友人・知人との仕事以外の多様な対面コミュニケーションの機会が、緊急事態宣言下の生活を通じて不要不急のものに限定される経験をした人が少なくなかったことを示唆している。コロナ禍を通じて、それを最も顕著に経験したのはシニア世代の女性だったと考えることもできるだろう。

自身や他者への感染を防ぐために生じたこれらの対面機会の減少は、それらが自身にもたらしていたさまざまな影響をあらためて意識したり、周囲や他者に果たしていた自身の役割等を再考する機会になった可能性もある。コロナ禍の経験は、リアルの世界で他者との対面コミュニケーション機会の減少を経験したシニア世代の女性が、リアルとオンラインにおける多様なつながりの今後を、さまざまな角度から再考する

転機になった可能性もあるのではないだろうか。

(ライフデザイン研究部 きたむら あきこ)

【注釈】

*1 第1回・第2回調査の概要や主な調査結果については、当研究所発行の以下のリリースを参照されたい。

<第1回調査>

「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（前編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_01.pdf

「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（後編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_02.pdf

<第2回調査>

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（つながり編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_05.pdf

*2 本稿では、「電話やメールでコミュニケーションすること」「写真や動画を用いてコミュニケーションすること」をいずれもオンラインコミュニケーションとして分析した。

*3 減ったと答えた人の割合が男性に比べ女性で高い傾向は、有職・無職（学生を含む）にかかわらず共通している（図表省略）。

*4 オンラインコミュニケーションによる対面機会の代替性をみるには、本来であれば、同じ対象に関する対面機会とオンラインコミュニケーション機会の増減状況の関連性を分析する必要がある。本稿ではサンプル数の制約等から両者の差をとらえることで代替性を考察した。なお、友人・知人との対面コミュニケーション機会が減ったと答えた60代女性70名のうち、いずれかのオンラインコミュニケーションが増えたと答えた人は18名（25.7%）であった。

*5 外出を「自粛している」と答えた60代女性では、友人・知人との対面コミュニケーション機会が減ったと答えた人が8割近くを占める。

*弊社ホームページの「新型コロナウイルス意識調査特集ページ」にてこれまでに実施した調査データや関連レポートを公開しています。

http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/ldi/total.cgi?key1=v_year